

# 飲水思源

町長

松岡市郎

## 本物、偽物、中国物

10月に国際写真文化交流のため中国・北京へ行った。オリンピック後の北京がどのように変わっているか関心があつた。一般電話の普及を飛び越し、一気に携帯電話やパソコン普及へと発展を遂げている国。訪問した時は中国の国慶節に当たり、1週間の休日もあつて賑わつていた。車は日本やドイツ製の普通車が多く、軽自動車はほとんど見当たらない。見栄を張っているという。いつも警笛の音が耳をつく。中心部を見ても本場の中国の姿(本物)は見えないらしい。

中国人ガイドさんの案内で免税店へ行った。1階が博物館、地下がお土産品店となっている。初めに名札を付けた職員(学芸員かもしれない)が、流れるような日本語で水晶彫刻や絵画などの作品について説明してくれる。感心して聞き入っていたら、別室に案内され、中国の伝統作品7〜8点を収蔵している棚が並んでいる前へ行き、作品(商品)が説明紹介される。最後に「皆さん、この作品はいくらぐらいだと思いますか」と聞く。「高いだろう。一千万円、いや300万円…」などと声が漏れる。すると職員から「今回、ご関心があれば特別に88万円でお分けします。お金は作品が届いてからで結構。この収蔵棚だけでも日本で

は十数万円はするものです」と説明が続く。

確かに素晴らしいが、猫に小判であつた。日本では、博物館で説明している職員が特別展示品を販売するとは考えられない。

地下にあるお土産品の店は免税店だという。10人近くの職員が日本語で話しかけてくる。不思議なことに商品の価格が段々と下がってくる。半額、3分の1、と…。一体適正な価格はいくらなのか? 偽物では?と疑問がわく。

中国の観光地のお土産品店に限つてのことだと思ふが、商品は本物でも偽物でもなく、中国物だと思ふ。中国物を買う時には、自分自身が納得する価格を付け、その価格で買うのが一番である。小職はネクタイを忘れてきたので240円(3千円程度)の価格のものを1本購入した。締めた後、首の回りのワイシャツが赤くなつている。ネクタイの上に塗布していた光沢のある色素が取れはじめたのだ。

世界が注目する中国は、これからのどのような方向に進んで行くのであろうか。今後進められようとしている国際交流は本物でなければならぬ。

## 文化交流館 新刊図書・ビデオ案内

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています

貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう(夜間返却窓口もご利用ください)。



ソーシャル・ネットワーク  
(映画、DVD)  
ワーナー・ホーム・ビデオ

ハーバード大学に通う19歳のマークは、親友のエドワードとともに学内の友人を増やすためのソーシャル・ネットワークサービスを開発する。そのサービスは瞬間に他校でも評判となり、社会現象を巻き起こすほど巨大サイトへと急成長を遂げるが…。実在のSNSサイトFacebookを創設したマーク・ザッカーバーグらの半生を描く。(120分)



エレベーター・ファミリー  
(児童書)  
著/ダグラス・エバンス 刊/PHP研究所

ウィルソン一家は、夏の休暇を過ごすために、大きなホテルにやってきました。ところが、残念なことに客室は満室だったので。けれども従業員も知らない素敵な部屋をウィルソン一家は見つけました。なんと、そこはエレベーターの中。エレベーターに寝泊りすることになったウィルソン一家は、ドアが開くたびにさまざまな人と出会います。



困ってるひと(一般書)  
著/大野更紗 刊/ポプラ社

ミャンマーのビルマ難民を研究していた大学院生の女性の腕に、ある日突然赤いしこりができた。その後、高熱と痛みのために動けなくなってしまう。どこの病院でも原因が分からず、自らが「難民」となって日本社会をサバイブする羽目に。病氣と闘ううちに、本当の闘いが病氣よりも社会の中に潜んでいたことに気づく。知性とユーモアがほとばしる命がけエッセイ。